

「やさしい日本語」が 外国人被災者の命を救います。



災害が起きた時、どうすれば確実に外国人被災者に災害情報を伝えることができるのか？「阪神・淡路大地震」直後に開始した私たちの研究は、調査・実験を繰り返しながら、どの国の人にも理解できる「やさしい日本語」での情報提供を提案しています。



写真提供：
防災ボランティア集結・集結を応援する会



「やさしい日本語」ってどんなことば？

A

Aは、阪神・淡路大震災が起きた1995年1月17日の朝7時に放送されたテレビニュースをもとにした文です。

今朝、5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を中心に広い範囲で強い地震がありました。

気象庁では、今後もしばらく余震が続くうえ、やや規模の大きな余震が起きるおそれもあるとして、地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物には近づかないようにするなど、余震に対して十分に注意してほしいと呼びかけています。

「やさしい日本語」に言い換えるときの基本原則

1 重要度が高い情報だけに絞り込む	「何が起きたか」を伝える情報 「これから注意することは何か」を伝える情報 「具体的に注意する事項」を伝える情報
2 あいまいな表現は避ける	「今後もしばらく余震が続くうえ」のような表現 「やや規模の大きな余震が起きるおそれもあるとして」のような表現
3 難解な語彙を言い換える	「今朝」を〈今日 朝〉のように言い換える 「危険」を〈危ない〉のように言い換える 「確認する」を〈よく 見る〉のように言い換える 「警戒する」を〈気を つける〉のように言い換える 「亀裂が入ったりしている建物」を〈地震で こわれた 建物〉のように言い換える
4 知っていると役に立つ災害語彙※ には「やさしい日本語」に言い換えた表現を添える	「余震」→余震〈後で 来る 地震〉 「避難所」→避難所〈みんなが 逃げる ところ〉 「炊き出し」→炊き出し〈温かい 食べ物 を 作って 配る〉 「津波」→津波〈とても 高い 波〉
5 複雑でわかりにくい表現は、 文の構造を簡単にする	- 文の意味が確実に伝わるよう一文を短くする - 語の意味が確実に伝わるよう文節に区切りを入れる 「気象庁では」から始まる一文が示す情報を「余震」と「こわれた建物」に注意する情報に分け、二分で表現する

B

Bは「やさしい日本語」に言い換えたものです。

今日 朝 5時46分、兵庫 大阪などで、大きい 地震が ありました。

余震〈後で 来る 地震〉に 注意して ください。

地震で こわれた 建物に 注意して ください。

※災害語彙 ふだんは見聞きしないが、日本人なら知っていて当然とされる語彙のこと。災害が起きたときに身の安全を保つために必要な重要語。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ100go-gaiyou.html>

「やさしい日本語」で ほんとうに外国人の命が救えるの？

私たちのグループが提案している「やさしい日本語」は、2004年の新潟県中越地震の時も、2011年の東日本大震災の時も活用されました。これには、1998年から複数回行ってきた検証実験が情報伝達の有効性を客観的に示すことになり「やさしい日本語」の活用に大きく結びついています。

東日本大震災での被災外国人の声

ゆっくりやさしい日本語なら理解できる。「これからやさしい日本語でながします」を聞くと安心。（仙台で被災したブラジル人女性の声）

仙台市国際交流協会刊行の報告書より

東日本大震災のときに被災外国人を支援した日本人からの便り

多言語支援センターのHPは、とくに「やさしい日本語」版が役に立っています。当会がサポートをしている（外国人）家庭では、携帯電話のメールを使っていなくて、電話だけという家庭が多いので、「やさしい日本語」の内容をそのまま伝えるようになります。とくに「子供のためにできること」は、どの家庭でも親御さん自身があの情報で落ち着く効果があったようです。

多文化共生マネージャー全国協議会へのメールより

以下では2005年にまとめとして行った検証実験※について説明します

実験の時期と場所、参加していただいた皆さん

2005年10月に、弘前市で有効性の検証実験を行いました。参加した外国人は中国、韓国、マレーシア、タイ、ベトナム、フランス、ドイツ、ルーマニアなど、17ヵ国からの留学生（88名）です。



実験の方法

留学生をAとBの2つのグループに分けました。Aグループには「普通の日本語」(NJ)で、Bグループには「やさしい日本語」(EJ)で同じ内容の災害情報を示し、2つのグループで、どのくらい理解に差が出るかを検証しました。



たとえば 分かったこと（一例）

「普通の日本語」(NJ)グループには「頭部を保護してください」という指示を、また、「やさしい日本語」(EJ)グループには、「帽子をかぶってください」という指示を与えました。その指示に従えたかどうかの成功率は、2つのグループで次のような大きな差がでました。

「やさしい日本語」(EJ)

95.2%

「普通の日本語」(NJ)

10.9%



成功



失敗

※検証実験

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/kaisetsusyohtml/kai-mokuji.html>

「やさしい日本語」は、どこで使われているの？

「やさしい日本語」は、災害情報を「迅速に」「正確に」そして「簡潔に」外国人被災者に伝えるために提案されました。全国の地方自治体やNPOでは、「やさしい日本語」を応用した災害時の被害を最小限に食い止める減災のための取り組みを始めています。

2015年には、全ての都道府県での活用が確認されました。

下の地図では、地方ごとの「やさしい日本語」活用事例の一部を紹介しています。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ8syakaitekihyouka.top.html>



東海・北陸

- やさしい日本語を用いた「BOUSAI RADIO」にて防災情報を放送 (FM TOYAMA)
- スマートフォン用やさしい日本語アプリの無料配信と手引きの配布 (愛知県庁)
- 地震防災ガイドブック「やさしい日本語」版を作成 (静岡県庁) 他

北海道・東北

- 「やさしい日本語」を使った避難誘導標識の設置 (弘前市役所)
- やさしい日本語を用いたラジオ「SIRA多言語情報局」を放送・配信 (仙台国際交流協会)
- 「みんなで使おう！ 外国人に伝わりやすい『やさしい日本語』」を作成 (山形県国際交流協会) 他

近畿

- 「外国人のための防災ガイドブック やさしい日本語版」を作成 (京都府国際センター)
- やさしい日本語版施設の案内を掲載 (兵庫県庁)
- やさしい日本語による電車遅延時の案内を掲載 (大阪市交通局) 他

関東・甲信越

- 「『やさしい日本語』で話してみよう！」を作成 (栃木県庁)
- 「やさしい日本語でコミュニケーション～外国人にわかりやすく情報を伝えるには～」を作成 (埼玉県立図書館)
- やさしい日本語版防災パンフレット「地震の時にあなたと家族を守るために」を作成 (新潟県庁) 他

九州・沖縄

- やさしい日本語版「北九州市外国人のための防災ハンドブック～災害時に備えて知っておくべきこと～」を作成 (北九州市役所)
- やさしい日本語版「在住外国人のための医療ハンドブック」を作成 (おおいた国際交流プラザ)
- 「観光客・外国人向け避難支援計画及び初動マニュアル」にやさしい日本語を導入 (座間味町役場) 他

中国・四国

- やさしい日本語版「外国人のための初めての防災ハンドブック～わたしにできること～」を作成 (鳥取県国際交流財団)
- 「『やさしい日本語』の手引き」を作成 (島根県庁、しまね国際センター)
- やさしい日本語版「南海地震啓発パンフレット」を作成 (高知県国際交流協会) 他

(2015年12月1日現在 458 活用例)

「やさしい日本語」は、 どんなふうに使われているの？

公共施設での掲示や自治体からの連絡に「やさしい日本語」を使うことは、外国人に情報を伝えるためには大切なことです。

■ 放送などに使う「やさしい日本語」の案文

避難所〈みんなが 逃げる ところ〉は 安全です。避難所は だれでも 使うことが できます
外国人も 使うことが できます。避難所に 行って ください。ぜんぶ 無料です。お金は いりません
避難所〈みんなが 逃げる ところ〉で できることを 知らせます

■ 緊急地震速報・津波警報での利用

緊急速報メール（エリアメール）^①が「やさしい日本語」で配信されます。

「やさしい日本語」の表現は、気象庁・内閣府・観光庁が公開した「緊急地震速報・津波警報の多言語辞書」^②に対応しています。

1

緊急速報メール（エリアメール）

https://www.nttdocomo.co.jp/info/news_release/2015/08/26_00.html

2

「緊急地震速報・津波警報の多言語辞書」

<http://www8.cao.go.jp/teiju-portal/jpn/policy/jishinsokuhou.html>

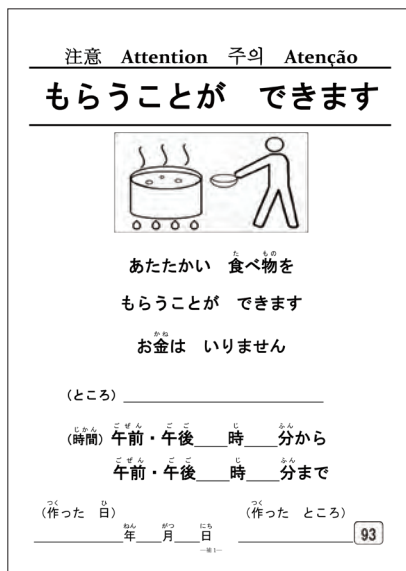
在留外国人たちが使う主要な外国語での表現に加え、国籍を問わず多くの外国人が災害時において適切な行動がとれる「やさしい日本語」を提供しています。

■ ポスターやビラなど「やさしい日本語」を用いた掲示物の具体例

情報から隔絶される災害発生からの72時間でも、外国人被災者が的確な情報を得られるよう「やさしい日本語」で伝える『災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』を作りました。阪神・淡路大震災や新潟県中越地震のときに必要となった情報だけでなく東日本大震災で新たに必要となった情報や掲示物も追加しています。

対象としたマニュアルの使用者は、外国人に災害情報を伝えようとする人たちです。都道府県庁や市区町村役場の担当者、消防、ボランティア団体、マスコミ、町内会の世話役といった皆さんです。

日本各地のコミュニティにとって有効な手本になることを意識して作られています。



下記のページから無料でダウンロードできます。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-top.html>

「やさしい日本語」で文を作りたいとき



「やさしい日本語」にするための主な規則

- ✓ 難しいことばを避け、簡単な語を使ってください。
- ✓ 使用する漢字や、漢字の使用量に注意してください。
すべての漢字にルビ(ふりがな)を振ってください。
- ✓ 1文を短くして文の構造を簡単にしてください。
文は分かち書きにしてことばのまとまりを認識しやすくしてください。
- ✓ あいまいな表現は避けてください。
- ✓ 災害時によく使われることば、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使い、「やさしい日本語」による言い換えを添えてください。

ホームページを活用しよう！

「やさしい日本語」作成のためのガイドライン

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejgaidorain.html>

「やさしい日本語」を学ぶ方法があります。

E ラーニング版

わかる！ 伝わる！ はじめての「やさしい日本語」

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/e-learningtop.html>

「やさしい日本語」になっているか、難しい日本語を使っていないかをチェックするソフトもあります。

「やんしす」(YAsasii Nihongo Slen System)

<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>



外国人にとってどのような単語や表現が難しいのかを知ることは簡単ではありません。そこで、日本語が苦手な外国人に代わって、文の中の難しい部分を指摘するアプリが「やんしす」です。作った文を「やんしす」に入力すると、外国人にとって難しい部分が赤やピンクで表示されますので、より「やさしい日本語」になるよう「やんしす」とやりとりしながら推敲することができます。

入力文 直ちに避難してください

評価

追加

分析結果

(1) 直ちに 避難 してください

評価ポイント

文 (1)

score: 69.02

直ちに：難しい単語です。可能なら簡単な単語に置き換えましょう。

避難：難しい単語です。可能なら簡単な単語に置き換えましょう。

作成済みテキスト

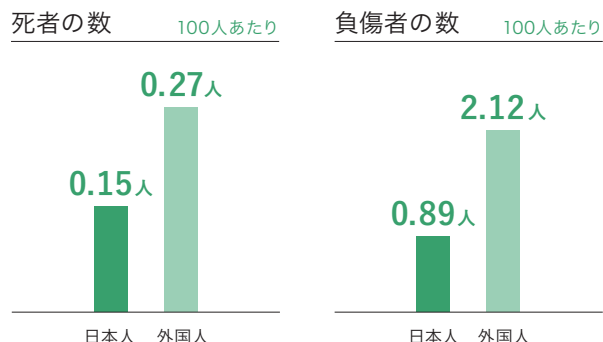
津波が来ます

文例

災害時の外国人は情報弱者になりがちです

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災の被災者の内、死者や負傷者の数を日本人と外国人で比べてみると、明らかに外国人の方が高い割合で被害を受けていることがわかります。死者で約2倍、負傷者では約2.4倍になっています。

出典：国際防災の10年国民会議事務局（財）都市防災研究所（1995）『阪神淡路大地震における在日外国人被災状況調査』をもとに作成

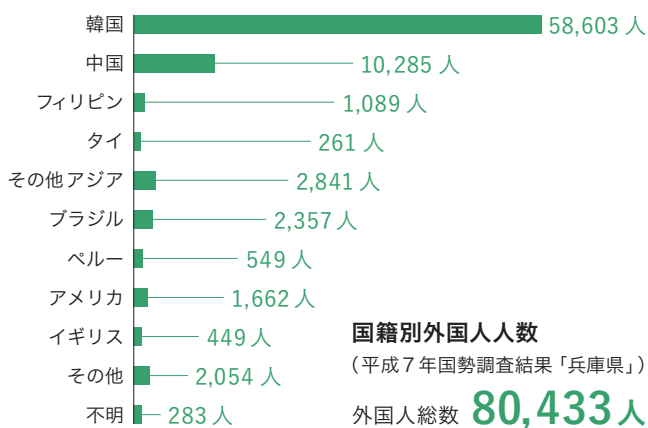


災害情報を多言語に翻訳している時間がありません

法務省の調べによると、東日本大震災が起きたとき、被災地に住んでいた外国人の国籍は160カ国以上でした。そのような状況の下では、情報をそれぞれの母語で伝えることはできません。

被災地の外国語ができる職員も被災者です。被災下での外国語対応は通訳者たちの能力をはるかに超えてしまいます。しかも何日もそれが続きます。ある国際交流協会に登録していた通訳ボランティアで、東日本大震災が起きたとき、実際に参加できたのは41%だったといいます。被災地外からのボランティアも、数日間は被災地に入れない事情があります。

英語だけでは限界があります



発災後、外部からの援助が始まるまでの「72時間」が生死を分けます。その間、災害情報をすべての外国語で提供できればいいのですが、時々刻々と変化する情報を、短時間で、しかも複数の言語に翻訳することはとても難しいことです。また誤訳の問題も生じやすくなります。「やさしい日本語」なら、災害情報を迅速かつ正確に伝えることができます。

だから…「やさしい日本語」が必要なんです

外国人住民は、いまでは日本中のどこにでも住んでいます。大きな災害が起きたとき、漢字圏からやってきた外国人にも非漢字圏からやってきた外国人にも、そして日本に住んで一年くらいの外国人でも身の安全を皆が確保できるようになるにはどうしても「やさしい日本語」での情報提供が必要です。

Q & A

Q 防災無線やコミュニティーFMでの緊急放送、消防や市区町村役場などの広報車で伝える読み方について、外国人にも日本人にもよりよく伝わるスピードの目安はありますか？

A 弘前大学の社会言語学研究室と東北大学の伊藤彰則研究室（音声情報処理）が、それぞれに異なる方法で実験しました。その結果、コミュニティーFMや防災無線、自治体の広報車等で使用されることを想定した読み方では、一分間に360拍のスピードが外国人にも日本人にもよく伝わり理想的であることがわかりました。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/onnseikennsyoukekkarenbunn.html>

Q 東日本大震災が起きたとき、「やさしい日本語」はどのように使われたのですか？

A 弘前大学の社会言語学研究室と「やさしい日本語」研究会有志は、東日本大震災で被災した外国人を「やさしい日本語」で支援する活動をしました。NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会（タブマネ）や仙台市国際交流協会（SIRA）他との協働では、外国人向け言語の一つとして「やさしい日本語」を使用しました。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/higashinihon-gaikokujinshien.html>
<http://eqinfojp.net/>

Q 「Eラーニング版「わかる！ 伝わる！ はじめての『やさしい日本語』～基礎文法編～」とは何ですか？

A 外国人に情報を伝えるとき「やさしい日本語」を使う自治体が増えました。自治体や国際交流団体の皆さんからは、「やさしい日本語」の規則を簡便に知りたいという要望が多く寄せられるようになりました。そこで、インターネット上で気軽に楽しく学べるEラーニング教材を用意しました。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/e-learningtop.html>

減災のための「やさしい日本語」研究は、 これまで以下の研究助成を受けて行われています

■日本学術振興会科学研究費補助金

- ・「国際社会における日本語についての総合的研究」
（国立国語研究所・水谷修，1994-1999）
- ・「非日本語話者に対する災害時の緊急言語情報の与え方に関する調査・研究」
（弘前大学・佐藤和之，1997-1999）
- ・「災害時の外国人のための『やさしい日本語』と社会的ニーズへの言語学的手法の適用」
（弘前大学・佐藤和之，2003-2005）
- ・「外国人被災者のための『やさしい日本語』を用いた災害時の情報伝達についての研究」
（弘前大学・佐藤和之，2006-2008）
- ・「日本語文難易度推定と音声合成による『やさしい日本語』作成補助システムの研究開発」
（東北大学・伊藤彰則，2014-2016）
- ・「『やさしい日本語』データベース構築のための基礎的研究」
（大東文化大学・前田理佳子，2015-2017）

■弘前大学学長裁量学術活性化基金・弘前大学人文学部長裁量経費・弘前大学地域未来創生センタープロジェクト経費

- ・「非日本語話者に対する災害時の緊急情報の与え方に関する調査・研究」
（佐藤和之，2000 - 継続中）

研究活動メンバー

（2015年4月現在）

【研究代表】

佐藤和之（弘前大学教授）

【研究会員】

伊藤彰則（東北大学教授）
坂本知巳（さかもとともみクリニック院長）
佐藤博彦（佐藤内科医院長）
庄司輝昭（NPO法人CAST職員）
杉戸清樹（国立国語研究所名誉所員）
中村康司（弘前地区消防事務組合消防司令長）
波多野厚緑（FMアップルウェーブ取締役）
馬場康維（統計数理研究所特任教授）
藤盛嘉章（藤盛医院長）
前田理佳子（大東文化大学講師）
松本功（ひつじ書房代表取締役）
水野義道（京都工芸繊維大学教授）
御園生保子（東京農工大学教授）
米田正人（国立国語研究所名誉所員）